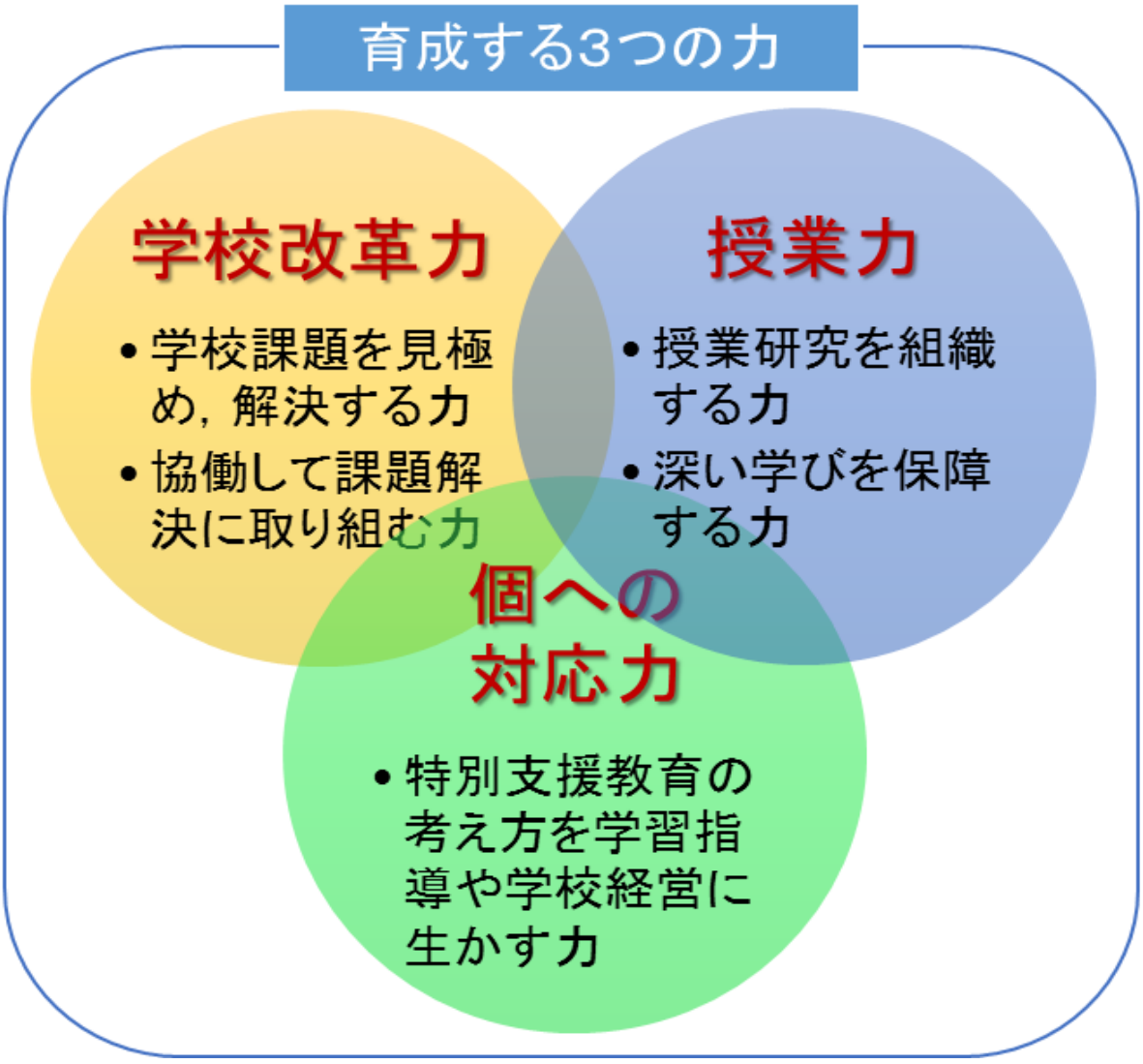
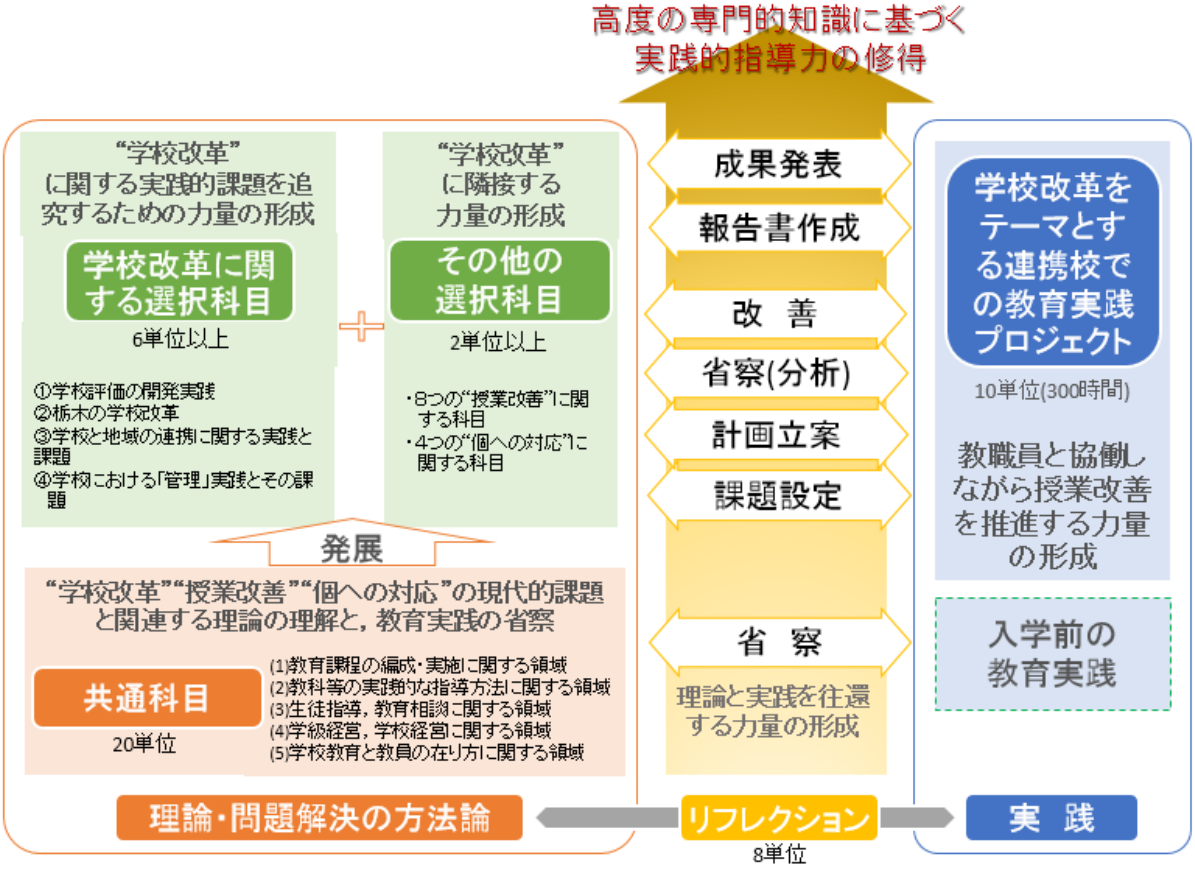
【資料１】育成する３つの力

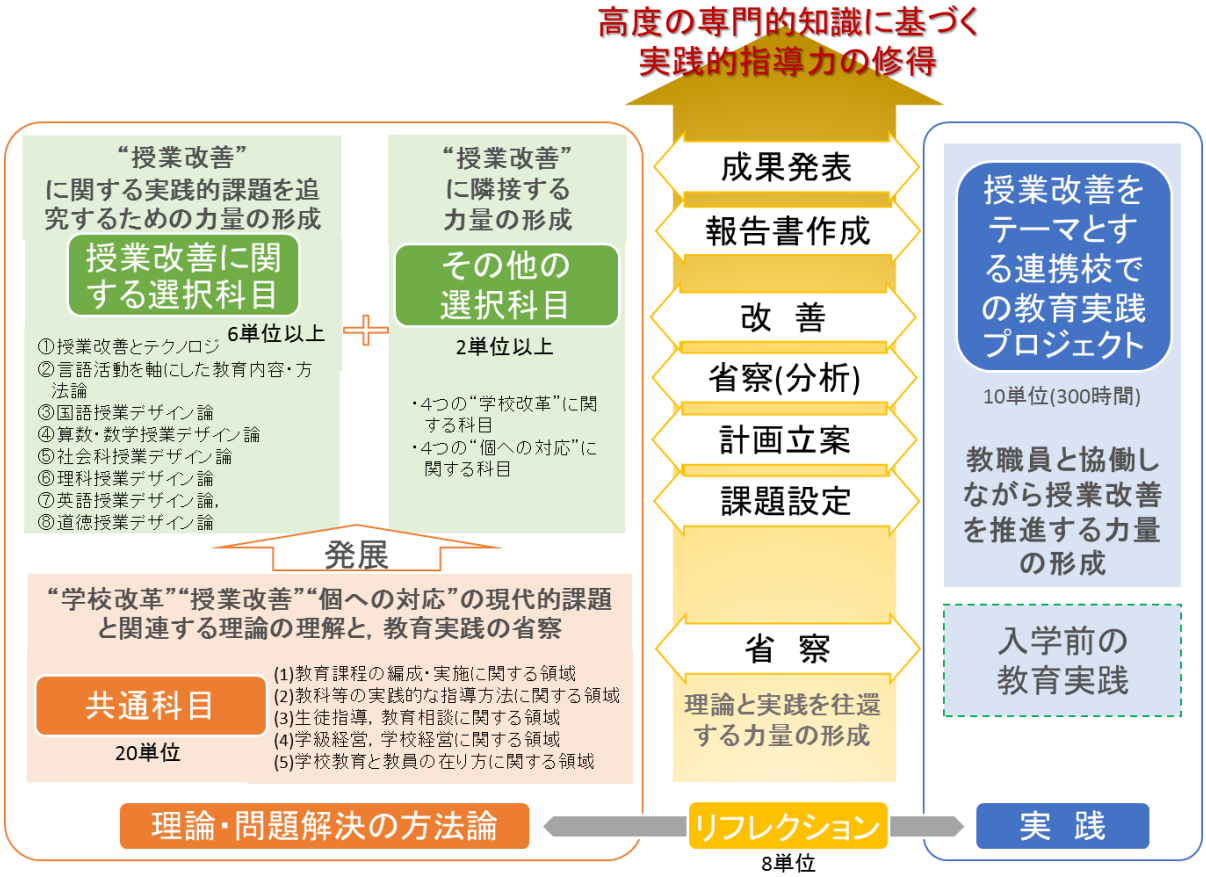


【資料２】現職院生のための履修モデル A～履修モデル C

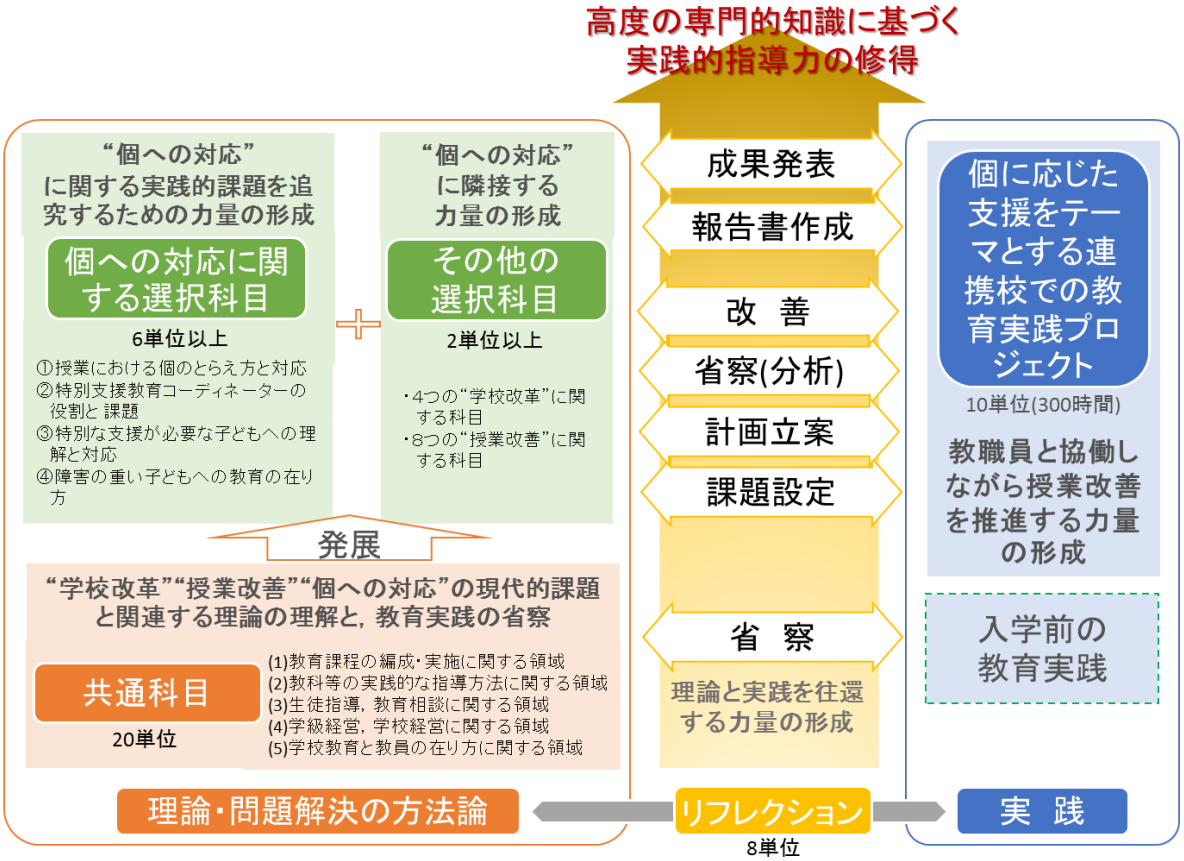
学校改革を中心とした現職院生の履修モデルA



授業力を中心とした現職院生の履修モデルB

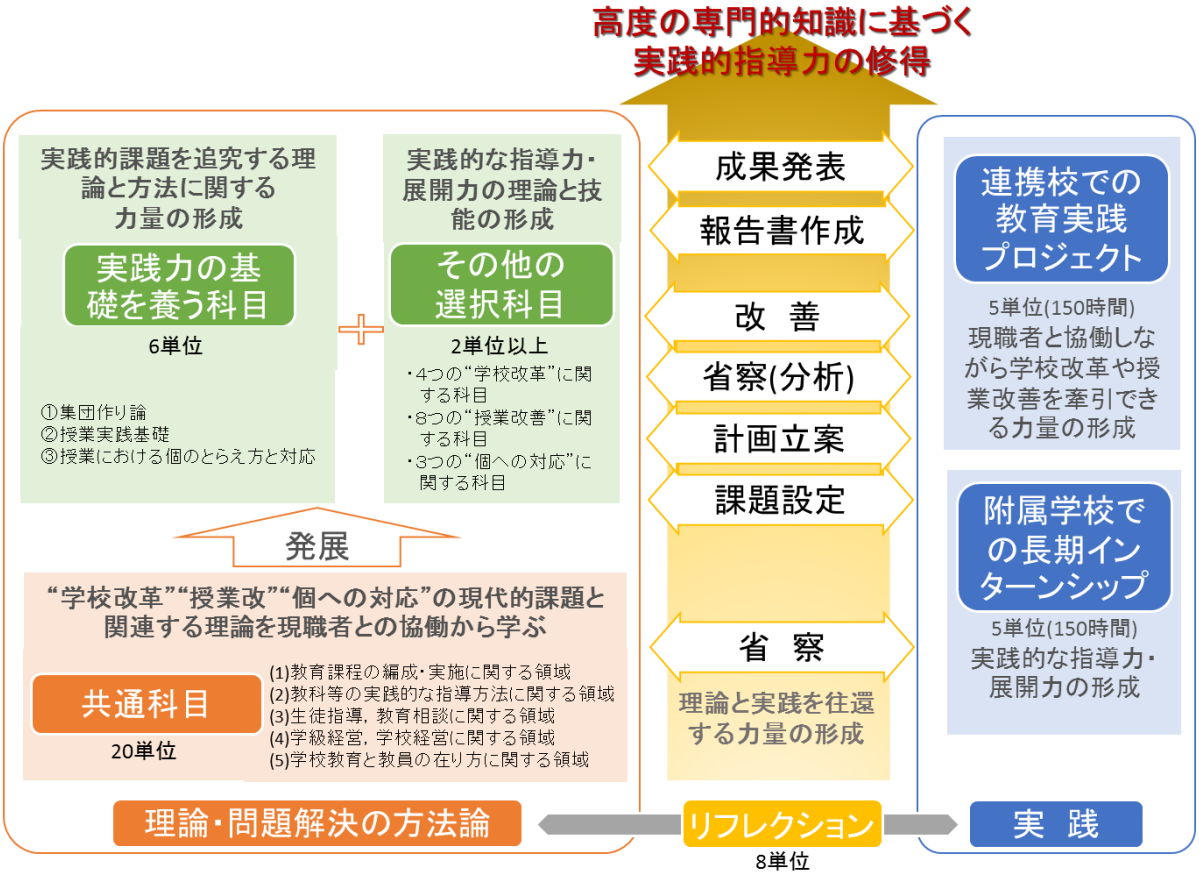


個への対応力を中心とした現職院生の履修モデルC



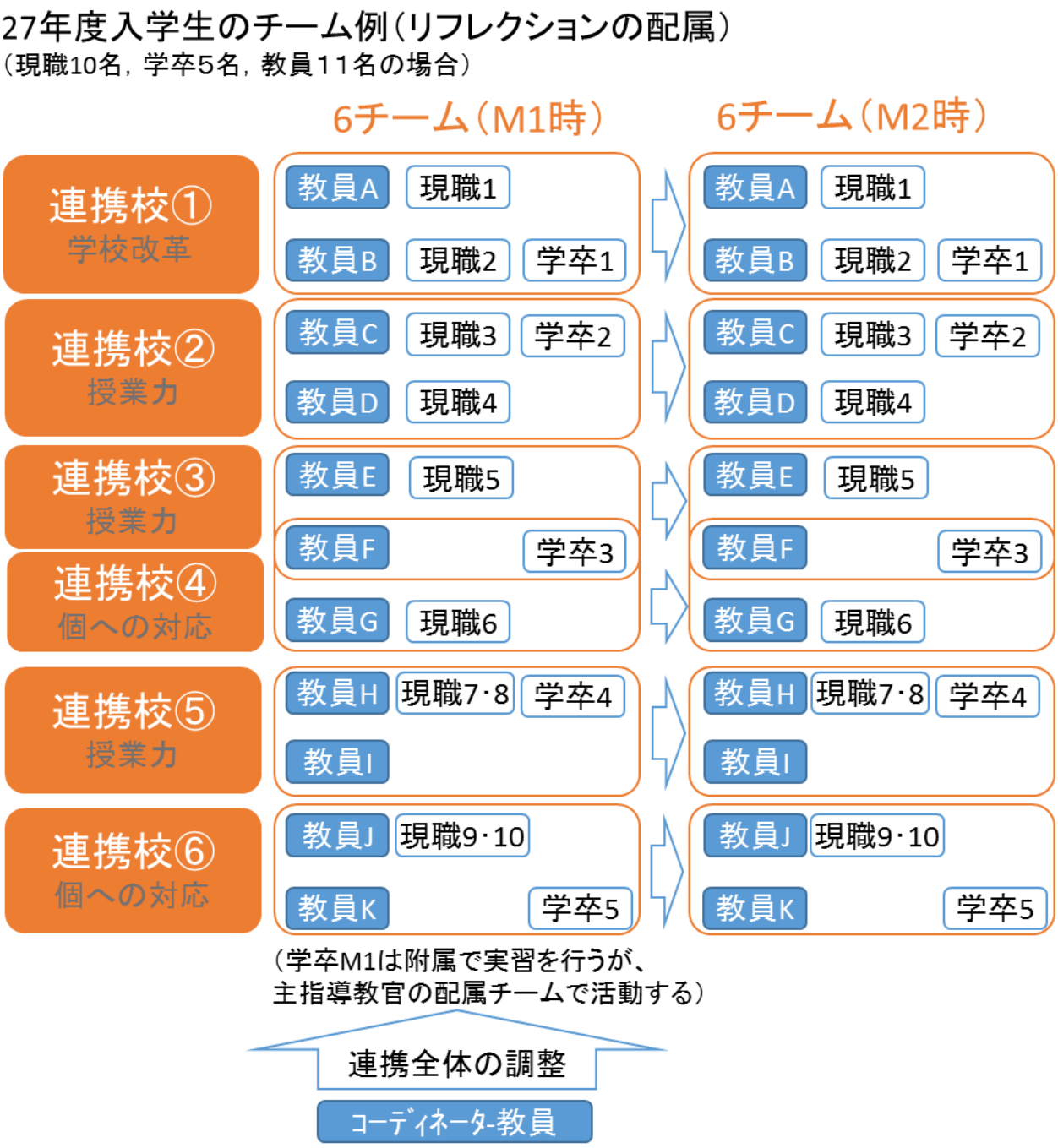
【資料３】学卒院生のための履修モデルＤ

学卒院生の履修モデルD



【資料４】教育実践プロジェクトのチーム構成例

【資料５】リフレクションのチーム構成例



【資料６】専任教員　２　の一週間の業務スケジュール

前期

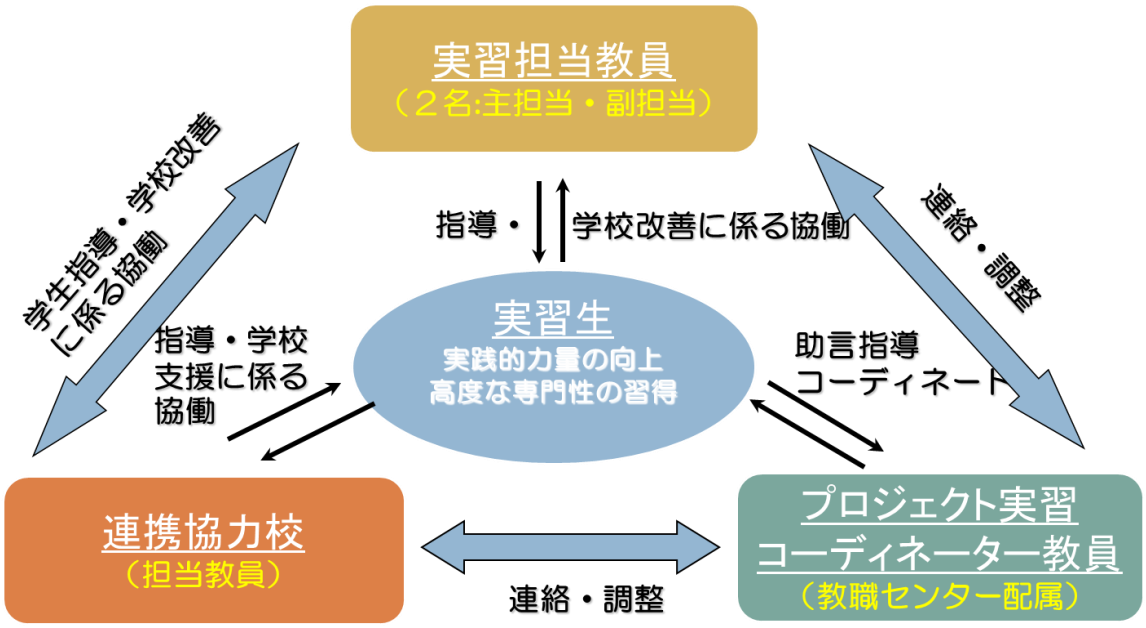
太字が大学院科目

	月	火	水	木	金
1･2	理科教材実験法Ａ	情報処理基礎	**授業研究の運営と課題（共通科目）**	初等理科教育法	
3･4				初等理科教育法	**授業実践基礎（選択科目）**
5･6		【会議】	【オフィスアワー】		**リフレクション**
7･8				**理科授業デザイン論（選択科目）**	**リフレクション**
9･10					
夜間					

後期

	月	火	水	木	金
1･2	中等理科教育法Ⅱ	**教育実践プロジェクトⅠ**	**教育実践プロジェクトⅠ**	初等理科教育法	
3･4		**教育実践プロジェクトⅡA･B**	**教育実践プロジェクトⅡA･B**	初等理科教育法	
5･6		【会議】	【オフィスアワー】		**リフレクション**
7･8	**長期インターンシップ**			**長期インターンシップ**	**リフレクション**
9･10					
夜間					

【資料７】教育実践プロジェクトおよび長期インターンシップの指導体制



【資料８】１年次の時間割モデル

＊ゴシックは共通科目、明朝は選択科目、イタリックは実習科目とリフレクションを示す。

（前　期）

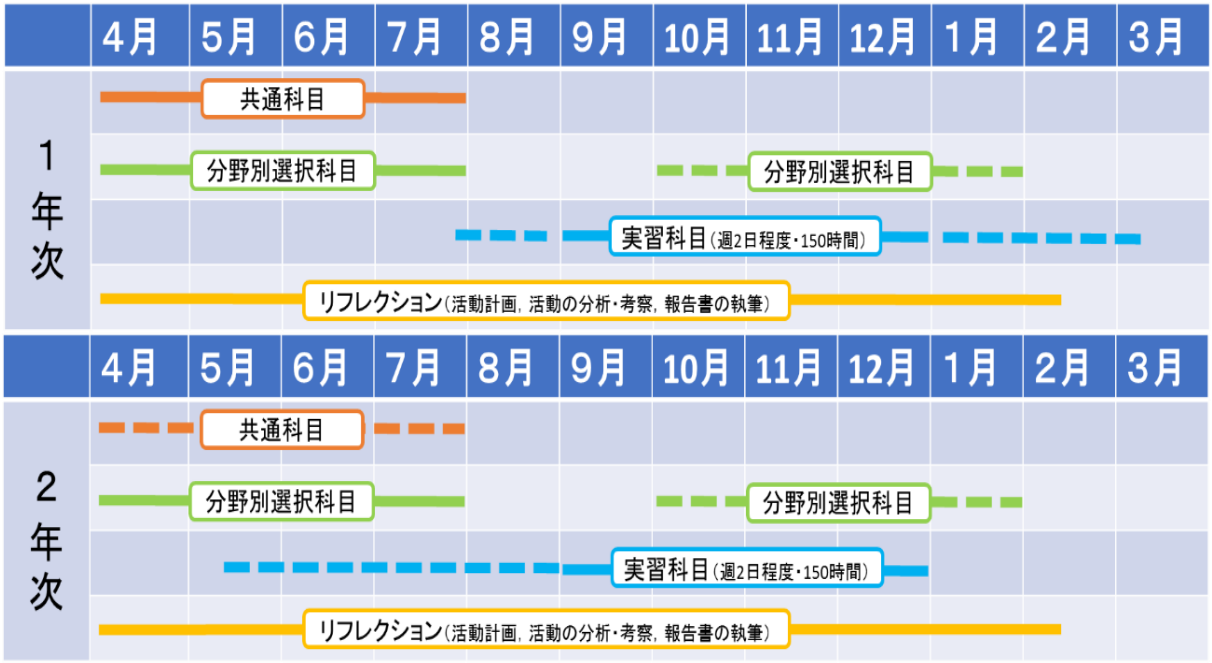
	月	*火*	*水*	*木*	*金*
1限	**カリキュラム開発の実践と課題**	**現代教師論**	**授業研究の運営と課題**		英語授業デザイン論
2限	**教材開発と教育方法の実践と課題**	**個に応じた指導の実際と評価**	**特別支援教育の実践と課題**	言語活動を軸にした教育内容・方法論	
3限	**生徒指導の実践と課題**				*リフレクション*
4限	**学級経営の実践と課題**				*リフレクション*

前期集中：**学校改革の理論と実践、学校教育をめぐる現代的社会状況とその対処**

（後　期）

	月	*火*	*水*	*木*	*金*
1限				*教育実践プロジェクト*	
2限		*教育実践プロジェクト*		*教育実践プロジェクト*	授業改善とテクノロジ
3限		*教育実践プロジェクト*		*教育実践プロジェクト*	*リフレクション*
4限	*教育実践プロジェクト*	*教育実践プロジェクト*		*教育実践プロジェクト*	*リフレクション*

【資料９】カリキュラム全体の履修イメージ



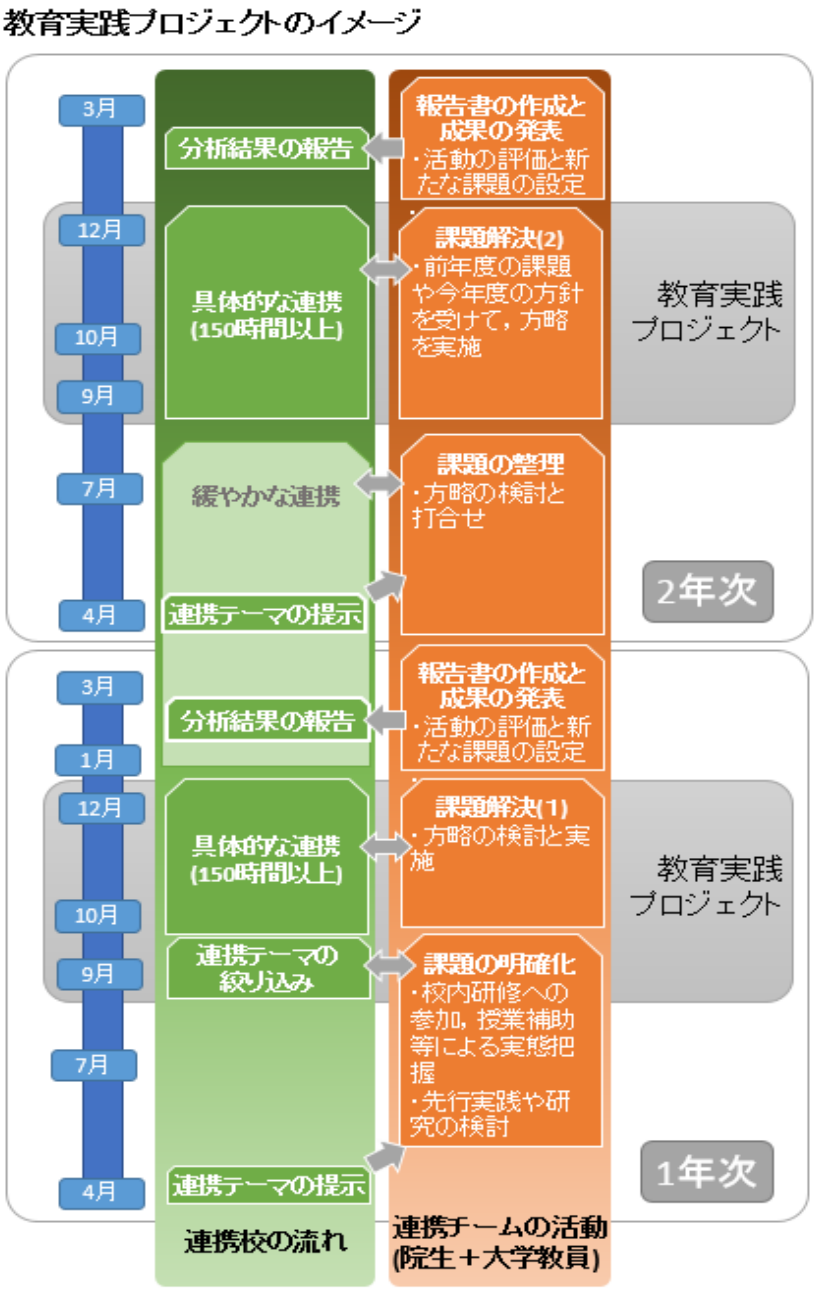
【資料１０】教育実践プロジェクトおよびリフレクションの活動イメージ

【授業力の向上をテーマとする院生の事例】

Ａさんは、入学前後のガイダンスを通して「授業力」を学修の中心テーマと決めました。選択科目は「授業力に関する科目群」を中心に履修しました。６月には、「学力向上（特に、協働学習による学力向上）」を課題とする連携協力校が決定しました。前期のリフレクションは、連携協力校の学習状況の分析、校内研修への参加、学力向上の先進事例の収集や理論研究を進めました。

９月から１２月は、週２日程度の連携協力校での活動をしました。前半は、学年の教育活動に協力しながら実態を把握しました。後半は、校内研修部会に参加し企画運営の協力をしたり、自ら提案授業を行ったりしました。後期のリフレクションは、校内研修の授業ビデオを分析することで、協働する子供の学びを詳細に捉え学校に提供しました。そのかたわら、指導教員の連携チームに所属する学卒院生が附属学校で行っている長期インターンシップの授業を参観し、リフレクションの際に自らの経験をふまえて検討に加わりました。

２年次は、新１年次生を迎えた連携チームで、先輩としてリードする立場の１年になります。まず１年次の分析で明らかになった課題の解決に取り組みます。前期は、大学での授業を受けながら、校内研修のサポートをしました。９月～１２月は、担当の先生と相談の上、新たな協働学習の方法を提案し、実践協力と評価を行いました。１月以降は、報告書の作成を行いま



した。その成果の一部は、連携協力校に還元します。これらの活動を通して、A さんは、自らの授業力と共に授業研究を組織する力を養いました。

【個への対応力の向上をテーマとする院生の事例】

B さんは、入学前後のガイダンスを通して、「個に応じた支援」を学修の中心テーマと決めました。選択科目は「個に応じた支援に関する科目群」を中心に履修しました。６月には、「個に応じた支援（特に、特別な支援を必要な児童の学習支援と学級経営のあり方)」を課題とする連携協力校が決定しました。前期のリフレクションは、連携協力校と対象児の実態把握、関連する先進事例の収集や理論研究を進めました。

９月から１２月は、週２日程度の連携協力校での活動になります。前半は、対象クラスに配属され、個別指導を通しながら実態を把握します。担当の先生と相談し、国語授業のユニバーサルデザインを検討し、その中で学級経営の要素を取り入れることになりました。後半は、担当の先生と協力しながら、国語授業のユニバーサルデザインの提案、実践および評価を行いました。活動の中から、テーマ解決のための学習モデルを作り、学校に提案しました。そのかたわら、指導教員の連携チームに所属する学卒院生Ｄさんが附属学校で行っている長期インターンシップの授業を参観し、Ｄさんのリフレクションの際に自らの経験をふまえて検討に加わりました。

３学期は週１日程、学校で活動し、学習モデルの課題を明確にしました。

２年次は、チームのリード役になるのはＡさんと同じです。１年次の分析で明らかになった課題の解決に取り組みます。前期は、１年次の課題解決の方法の検討を行います。また、全学年が組織的に取り組める体制作りの協力をしました。

９月～１２月は、国語以外のユニバーサルデザインを提案し、実践と評価を行いました。２年次も学卒院生への助言は重要な学びです。

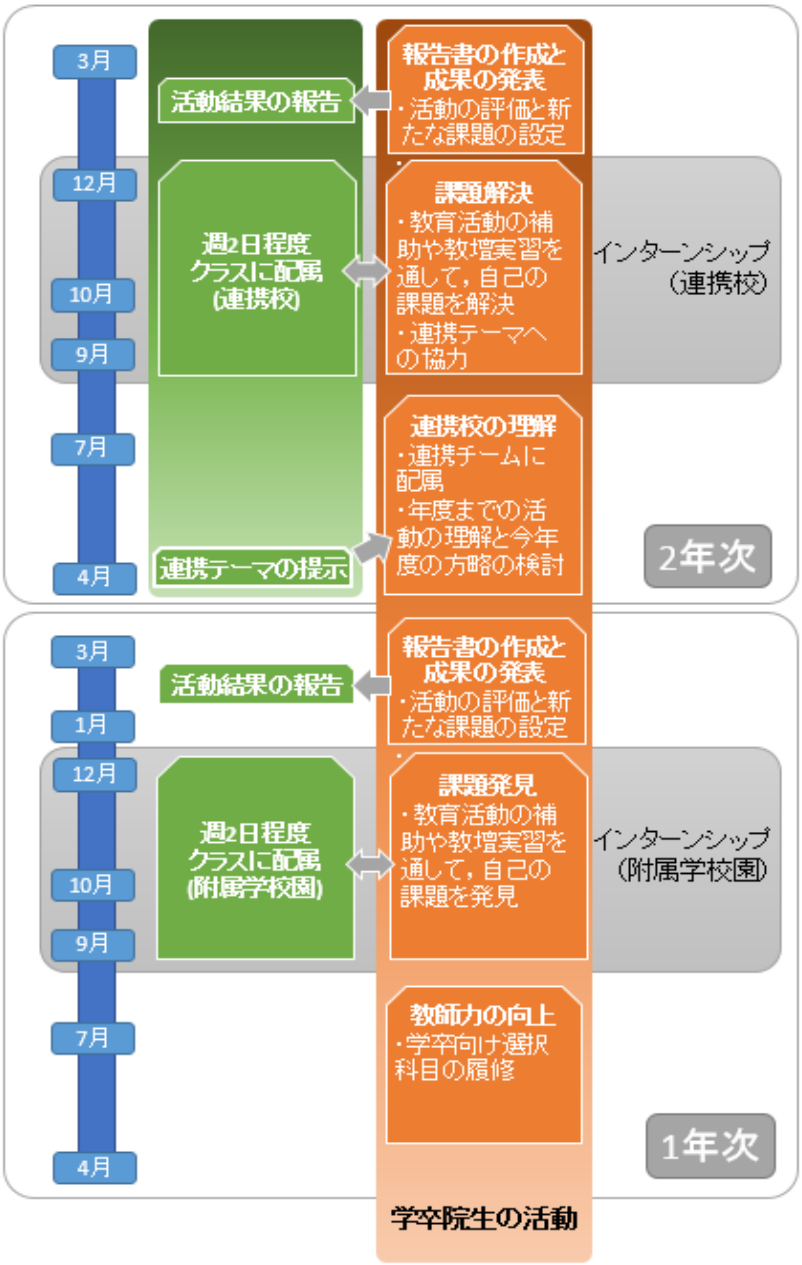
１月以降は、報告書の作成を行いました。その成果の一部は、連携協力校に還元します。これらの活動を通して、B さんは、通常学級での個への対応力ともに、特別支援コーディネーターとして組織的に活動する力を養いました。

【学卒院生の場合】

C さんは、小学校教員を目指しています。選択科目は、授業改善の基礎的な力、学級経営の力、授業で個に対応する力を育成する科目を履修しました。１年次の１０月からは、週４日午前中に附属小学校第４学年で長期インターンシップを行いました。メンター（担任および教務主任）の指導を受け、前半は T2 として個別指導や担任業務の補助をしました。後半は、算数の一つの小単元を T1 として授業を行いました。リフレクションでは、指導教員の連携チームで自己の授業実践の分析をすることで、現職院生と討論しながら課題を明確にしました。

２年次は、現職院生が活動する連携協力校で教育実践プロジェクトを行いました。T2 として担任の補助を行うだけでなく、１年次の課題を解決するための授業実践を進めました。その経過や結果について指導教員の連携チームでのリフレクションで検討し、報告書にまとめました。これらを通して、C さんは、即戦力となる実践力を養いました。

長期インターンシップのイメージ



１．教職大学院棟の図（【資料１１】７３，７４ページ）

２．本文３１ページに記載する教職大学院棟の整備予定の校舎内図面であるが，安全上の配慮より掲載を省略する。